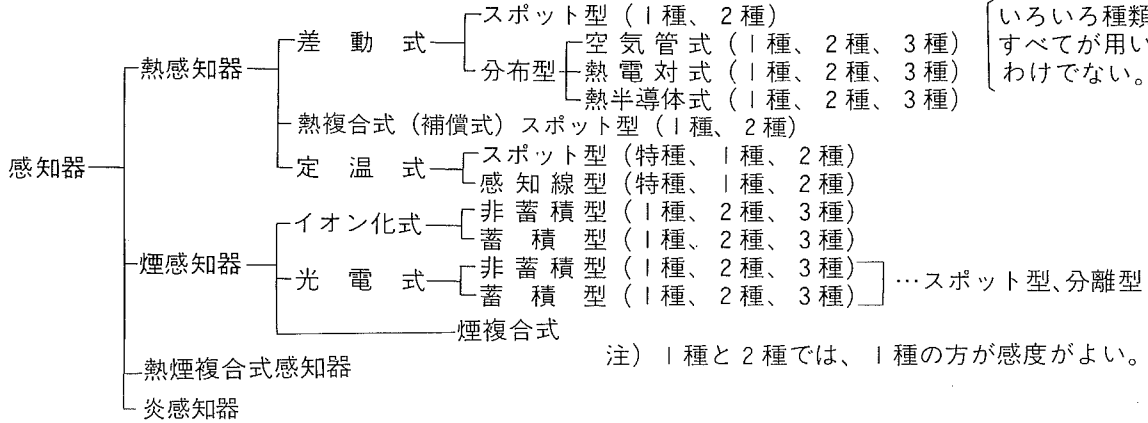


自動火災報知設備

ガス漏れ火災警報設備

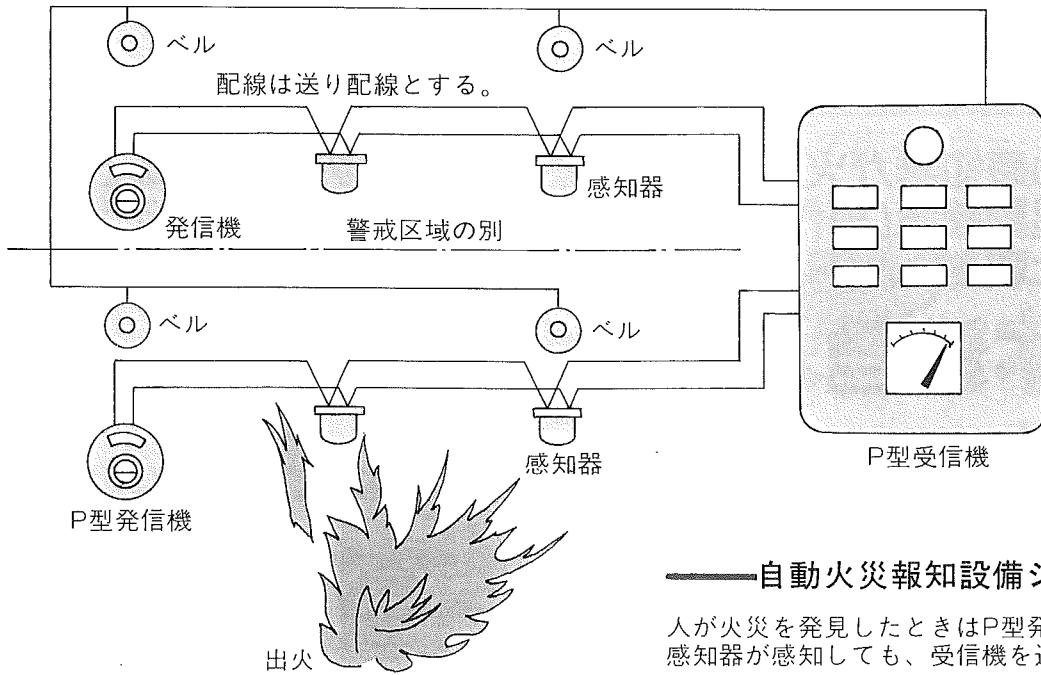
感知器の分類



いろいろな種類は多いが、すべてが用いられているわけではない。

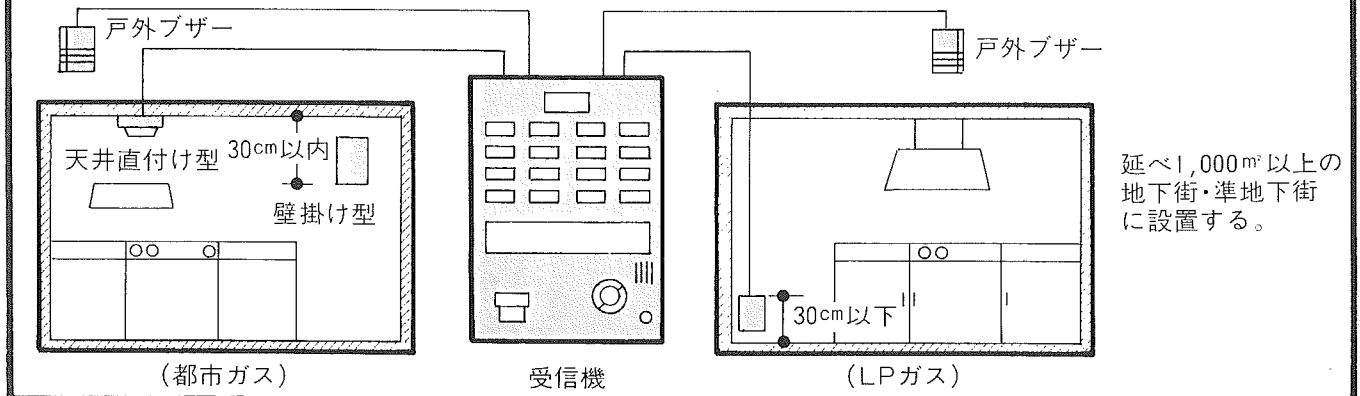
…スポット型、分離型

注) 1種と2種では、1種の方が感度がよい。



P型とは、Proprietary Typeの略、私設の意味。これに対して公設のものは、M型(Municipal Type)という。

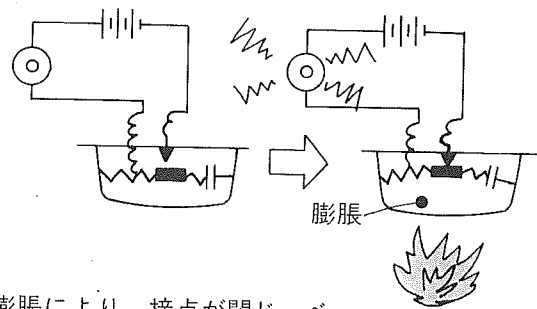
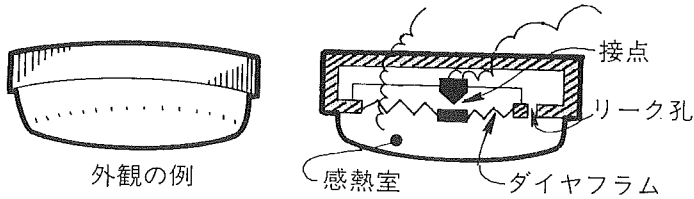
ガス漏れ火災警報設備



[参考条文] <ガス漏れ火災警報設備> 消防法施行令第21条の2、消防法施行規則第24条の2の2～第24条の2の4、ガス漏れ火災警報設備に使用中継器及び受信機の基準

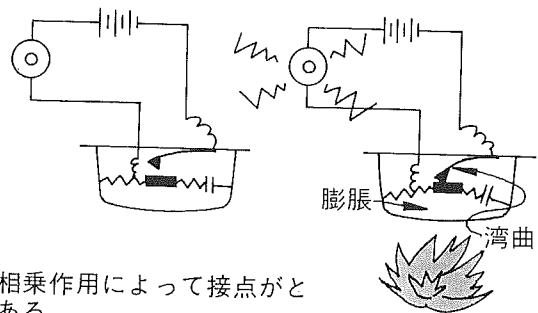
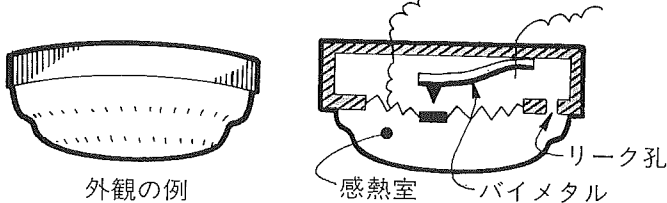
感知器のいろいろ

(1) 差動式スポット型 (図記号)



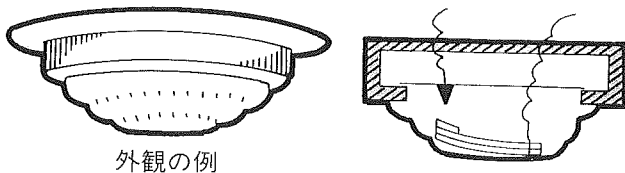
空気の膨脹を利用して感知する。火災時にはダイヤフラムの膨脹により、接点が閉じ、ベルが鳴る。(通常の温度変化に対しては、リーク孔から膨脹した空気が逃げ、作動しない。)

(2) 補償式スポット型 (図記号)

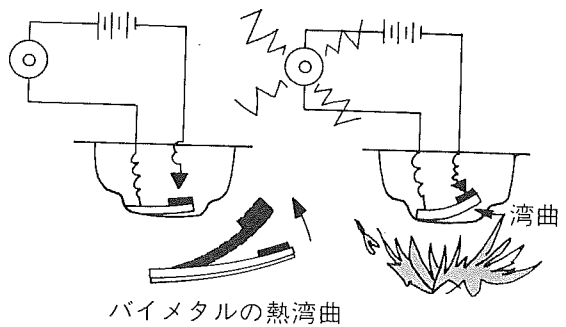


火災発生時には、ダイヤフラムの膨脹とバイメタルの湾曲との相乗作用によって接点がとじる。差動式と定温式の両方式の長所・短所を補いあう方式である。

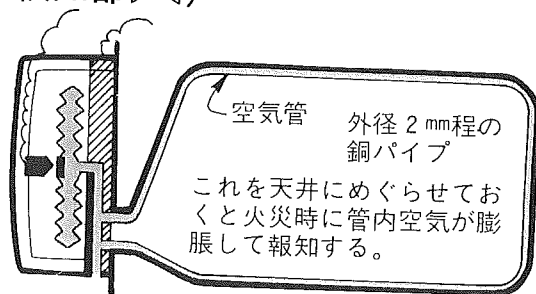
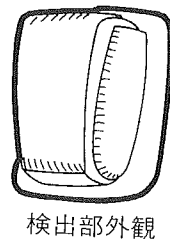
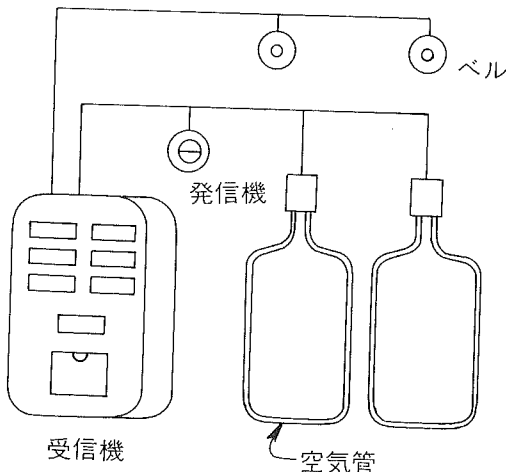
(3) 定温式スポット型 (図記号)



バイメタルというのは、膨脹率の異なる2種の金属(黄銅とインバー等)をはりあわせたもの温度の上昇により湾曲が激しくなる。
定温式は、この原理を利用して火災を報知する。



(4) 差動式分布型(空気管式) (図記号: 空気管 検知部)



空気管というのは、極めて細い銅パイプ(外径2mm)で火災時にパイプ内の空気が膨脹すると検出部のダイヤフラムを膨脹させ接点を閉じる。
原理的には差動式である。

[参考条文] <自動火災報知設備> 消防法施行令第21条、消防法施行規則第23条～第24条の2 火災報知設備の感知器及び発信機の規格省令、中継器の規格省令、受信機の規格省令